




2025 年 5 月 4 日		(朝 10 : 30-11 : 30)
聖 日 礼 拝		司会 城尾公彦
前 奏	全員黙祷 「新聖歌 23 番」	ヒムプレーヤー
招 詞	イザヤ書 63 章 7～8 節(旧 1036 頁)	司会者
頌 栄	「新聖歌 60 番」	ヒムプレーヤー
主の祈り	(プログラムに印刷)	全 員
使徒信条	(プログラムに印刷)	全 員
交読文	新改訳 12 番 詩篇 34 篇 888 頁	司会者・全 員
聖 書	使徒行伝 13 章 2～3 節(新 202 頁)	司会者
讃美歌	新聖歌 182 ただ信ぜよ	ヒムプレーヤー
祈 祷	司会者による祈り	
	子供達の祝福の為の賛美 484 番	ヒムプレーヤー
讃美歌	新聖歌 209 慈しみ深き	ヒムプレーヤー
メッセージ	「世界宣教の開始」	城尾マコト牧師
讃美歌	新聖歌 136 御霊よ降りて	ヒムプレーヤー
	証とお知らせの時間	
献 金	新聖歌 55 番	
頌 栄	新聖歌 63 番	
祝 祷		城尾マコト牧師
後 奏	全員黙祷 新聖歌 59 番	
<div>    </div> <div> <span>Youtube</span> <span>Facebook</span> <span>HomePage</span> </div>		

## 世界宣教の開始

使徒行伝は 13 章から、大きな転換点を迎えます。これまでの舞台だったエルサレムを離れ、福音が「地の果てにまで」広がっていく新たな段階——世界宣教がここから本格的に始まるのです。そして、その出発点となったのが異邦人地域にあるアンテオケ教会でした。

この教会は、多様性と一致を兼ね備えた、非常に靈的に成熟した群れでした。預言者や教師といった靈的な指導者が与えられ、日々主を礼拝し、断食し、熱心に祈る共同体でした。そこに集っていたのは、資産家のバルナバ、アフリカ出身のシメオン、北アフリカ・クレネのルキオ、ヘロデ王と育てられたマナエン、そしてかつて教会を迫害していたサウロ（パウロ）と、実に多彩な顔ぶれでした。彼らは出自も国籍も異なる中で、主にあつて愛と一致を保ち、真理に仕えていたのです。

ある日、彼らが断食と祈りをもって主に仕えていたとき、聖霊が語られました。「さあ、わたしのためにバルナバとサウロを聖別し、わたしが召した働きに就かせなさい」と。その召命に対し、教会はさらに断食し、祈り、二人の上に手を置いて、喜んで送り出しました。最良の人材を手放すことを惜しまず、福音のために捧げたアンテオケ教会の姿勢は、今日の私たちにも大きな模範を与えてくれます。

すでに、サウロは回心してから十年以上、タルソやアンテオケでの準備期間を経ており、バルナバもまた整えられた人物でした。二人は聖霊に導かれ、セルキヤへ下り、船でクプロ島へと渡って行きます。最初に訪れたのはサラミス。そこではユダヤ人の会堂で神の言葉を語り始めました。同行していたのは、マルコと呼ばれるヨハネでした。彼はこの後、旅の途中で二人と別れエルサレムへ帰ってしまいます。彼の心に何があったのか、聖書は多くを語りませんが、若さゆえの葛藤や不安があったのかもしれない。

彼らは島全体を巡り、やがてパposという町に至ります。そこにはセルギオ・パウロという地方総督がいました。聡明な人物で、バルナバとサウロを招き、神の言葉を熱心に聞こうとします。しかし、そこには「まじゅつ師」エルマ、別名バル・イエスという偽予言者がいて、総督の心を惑わせ、伝道の妨げとなっていました。

そこでパウロは、聖霊に満たされ、厳しく彼を戒めます。「あらゆる偽りと邪惡に満ちた悪魔の子よ。主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか！」と。そして神の力により、エルマは一時的に盲目となり、手を引いてくれる人を探し回ることになります。

この出来事を目の当たりにした総督セルギオ・パウロは、主の教えに驚き、信じる者となりました。こうして、アンテオケ教会から祈りと献身をもって遣わされた福音の働きは、確かに地の果てへと歩み出していったのです。

城尾マコト牧師